

# ジュール・ヴェルヌ『ジャン ガダ』のメモ(絵地図付き)

takaidos

## 『ジャンガダ』のあらすじとメモ

---

『Jangada (大筏)』(英語タイトル『800 league on Amazon』)

ジュール・ヴェルヌ(1828-1905)。

1881年発行。

安東次男・訳。

1968年発行。

ヨーロッパでは奴隷解放がされ、アメリカ大陸でも奴隷解放が進みつつあった1852年。

娘ミンハ(Minha)の結婚式のために、一家をあげてIquitos(ペルー)からBelem(ブラジル)までアマゾン川3200km(? ←英語版では800リーグ(800×3マイル=800×4.8km=3840km)を旅する。

アマゾンにはまだ蒸気船は走っていない時代。

前半はマナウスまで『川下り』の様子、後半は『冤罪』を晴らすために『暗号』解読。

そしてマナウスからは大きく端折ってベレンに到着。

良心に苛まれる登場人物が活躍する。

後半の展開はデュマ調。

文字列を操作するタイプの『暗号』の解き方も分かるように説明されている。

<目次>

第1章

1. 森番

2. 泥棒と盗み

3. グラール家

4. ためらい

5. アマゾン

6. 地上を覆う森林

7. 蔓づたいに

8. ジャンガダ

9. 六月五日の夕

10. イキトスからペパスへ

11. ペパスから国境へ

12. フラゴツソ開業

13. トレス

14. さらにアマゾン河をくだって

- 15.同じくアマゾン河くんだり
- 16.エガ
- 17.攻撃
- 18.到着の食事
- 19.古い物語
- 20.二人の男の間で

## 第2章

- 1.マナウス
- 2.最初の瞬間
- 3.過去へのさかのぼり
- 4.心証
- 5.物的証拠
- 6.最後の打撃
- 7.解決
- 8.最初の探索
- 9.第二の探索
- 10.砲声一発
- 11.鞆のなかみ
- 12.文書
- 13.数字が問題になる場合
- 14.まったく偶然に！
- 15.最後の努力
- 16.手はずはととのった
- 17.最後の夜
- 18.フラゴッソ
- 19.チュコの犯罪
- 20.アマゾンの下流

## 訳者あとがき

### <登場人物>

トレス:森番(逃亡奴隷を捕まえる)。謎の文字列の書かれた紙を持ち歩く。ブラジル出身。ダイヤモンドの産地ミナスジェライス州チュコで生まれた。30～35歳。ホアンが無実の証拠を握る。

マガルアエス:ポルトガル人。イキトスの農園主。

ホアン・グラール:ブラジル生まれ。1826年イキトスに行き着きマガルアエスに迎えられて農園拡大に貢

献し、その娘ヤキタと結婚した。マガルアエスの跡を継ぎ1852年時点で農園主。48歳。グラール(Garral)一家の家長。

ヤキタ:その妻。マガルアエスの娘。44歳。

ベニート・グラール:ホアンとヤキタの長男。21歳。

ミンハ・グラール:その妹。20歳。

マノエル・バルデス:パラ州ベレンの商人の息子。ベニートの親友。ミンハと婚約。22歳。

シベール:グラール家の召使い。60歳。黒人女性。

リナ:グラール家の召使い。若い混血娘。明るい。

バルデス夫人:ベレンに住むマノエルの母親。

フラゴッソ:床屋。4人の若者が森で見つけた男。シポのつる草で自殺しようとしていた。

パサンハ神父:イキトスの伝道師。70歳。

アラヨ:ジャンガダの水先案内人。

リベイロ判事:マナウスの判事。

ビセンテ・ハリケス判事:リベイロの後継・代理。気難しい。

ホアン・ダコスタ:元チュコの役人。1826年のダイヤモンド強奪犯たちの共犯者として死刑宣告されるが脱獄して生き延びた。52歳。実は...

フランシスコ・デ・オレラーナ:スペインのコンキスタドール(征服者、探検者)。アマゾンの命名者。アマゾンアマゾン河とヌナムンダ川のほとりで女戦士に遭遇したと主張。フランシスコ・デ・オレリャーナ(スペイン語: Francisco de Orellana, 1511年 - 1546年)

=====

<英語版で読み始めたときのメモ→途中で挫折>

Torres: Captain of mato (伐採職人?)、森番(逃亡奴隷を捕まえる)、ブラジル出身白人。30歳。なぞの暗号文を所持する。

Benito Garral: 1833年生まれ。サルを撃った方。Joamの息子。勉強でベレンに行った時にマノエルと友達になる。1852年で21歳?

Manoel Valdez!: 1832年生まれ。Benitoよりひとつ年上。1852年で22歳!? assistant surgeon, Brazilian army。商人の息子。父親は家を残した。

Minha: Benitoの妹。Manoelと結婚する。1852年20歳?

Joam Garral: 1826年にイキトスに来て1830年26歳でヤキタ22歳と結婚して大農園主となる。1852年48歳。

Magalhaës: 木こり。ポルトガル人。Joamを仲間に迎える。

Yaquita: Magalhaësの娘。Joamの妻。1852年で44歳。

Cybele:60歳。黒人女性。ヤキータの世話人。

Lina:ミンハと同じ年の、よく笑う混血女子。ミンハの付き人。

Fragoso:床屋。リナ、ミンハ、ベニート、マノエルに救われる。

Araujo:jangadaの水先案内人。

Garral familyには以上のほかに100人のインディアンの召使いと200人の黒人奴隷がいた。しかし奴隷の子はもはや奴隷では無く、ガレルはこの点でブラジル政府を先導していた。

=====

<あらすじ>

1852年5月4日。

森番トレスは謎の暗号文を見つけカバンに入れてアマゾンのジャングルを歩いていたところ、オナガザルにカバンを奪われてしまう。

偶然通りかかった二人の青年マヌエルとベニートが銃で猿を仕留めてカバンは彼の手に戻る。

#### アマゾン流域の気候

アマゾン河は赤道下数度のところを流れていて、絶えず西からの風が吹いている。

気温は一方が25℃を下らないなら33℃以上にもならず、一年中わずか8℃の間隔をもって28~29℃の平均気温を保ち、アジアやアフリカのような酷熱にはならない。

→ヴェルヌは湿度のことを考慮に入れていない。

#### イキトスの生物と植物

・動物：グアリバ(オナガザル)、ペッカリー(野ブタ)、アグーティ(野うさぎ/齧歯類)、アルマジロ、アンタス(獺)、タマンドア・アッサ(オオアリクイ)。シカ、水天竺鼠(カピバラ)

・野鳥：オウム、インコ、カシク(ツリスドリ)、ハチドリ、キヌバネドリ、ティサウラス(ハサミ状の長い尻尾と花のような容姿)、サビアス(ガーデン・ウォーブラー)、オオハシ(巨嘴鳥)、アルマ・デ・ガト(リスカッコウ)、グラヴィアオ(ガヴィアオ/オウギワシ)、ナウドゥス(ダチョウ)、セリエマス(ノガンモドキ)。

・ネストル、レイルス、マリブダス。

・植物：ギリリス、ミモザ、イチジク、グワラナ、トケイソウ、アナナス、ムリシス、バリグドス、ボンバクス、クァティボス、イビリラテア、ジャカランダ、セザルピナス、サプシアス、サンシュユ類、ジャピカンガ(シボ類)、ネム、竜血樹、紫檀、バカバ、テュキュマ、フィキュ、グアルテ(棕櫚)、野牡丹、オンシディウム、リコポデス、ヘリコニウス、カリアンドラ、リップサル、白イポネア、ヴァニラ樹、バナナの樹、葡萄類、ベコ。

・農場産物:ゴム、マニオク芋、コーヒー豆、サトウキビ、糖蜜、タフィア(ラム)、材木、カンピーヌ鶏、インハム、葛、トウモロコシ、落花生、マニホク(灌木)。

サカナ:タンバグス、ピラルク、カンディルス、ピランハス。

・飲料:カシマ、マチャチェラ、ベイラ、チカ、マザト(ウカヤリ)、ベイユ(ブラジル)、チカ(ペルー)、ガラナ、パウリニア・ソルビリス、アサイ椰子。

ホアン・グラールの大農場。

産物はゴム、羊、マニオク芋、コーヒー、サトウキビ、糖蜜、ラムの原材料。

Garral familyには以上のほかに100人のインディアンの召使いと200人の黒人奴隷がいた。

しかし奴隷の子はもはや奴隷では無く、ガレルはこの点でブラジル政府をリードしていた。

娘ミンハとマノエルの結婚式をベナンで行なうために巨大なジャンガダを作って一家でアマゾン河を下る決断をするが、ホアンには気がかりな事があった。

出発前にベニート、マノエル、ミンハ、リナの若者たちは森を散歩し、そこで偶然蔓草でクビを吊ろうとしていた理容師のフラゴツソを発見し助ける。

そしてフラゴツソもジャンガダでアマゾン河下りをする事になる。

ジャンガダ(巨大筏)の仕様。

長さ320m×幅19.2m。

漕ぎ手80名(インディオ40名、黒人40名)。

800メートル四方の森を伐採して造る。

筏の上にくつも小屋を作り乗員の住居とする。

5月26日、ミンハ、リナ、ベニート、マノエルの4人は森に散策に行き、自殺しようとしていたフラゴツソを助けて連れ帰る。

6月5日、ジャンガダ完成。

6月06日、イキトスを出航。

6月07日、プカルパ(新オラン)村を通過。

インディオのマイルナル族、オレホネス族の絵に描いたような美しい村。

ベンガラを塗ったような未完成の教会、藁葺き屋根の小屋、椰子の木、丸木舟。

ナポ島。

マンゴ小島。

食人種。鼻に小さな棒を通し、耳朶に重い木の円盤。

ベラ・ヴィスタ村を通過。

6月09日、オラン潟を通過。

鳥類を狩猟する。カイアララ(カイツブリ/高価な羽毛)。

オマガア族の村、アムビアク河口を通過。

6月11日、ペバス村に停泊。住民:260人。

齧歯類、カピバラを狩猟。

6月12日、コチクイナス村を通過。

剃髪入墨、鼻と下唇に金属盤の土人。

釣り:パコス、スルビス、ガミタナス、ドウリダリス、カンディルス(ナマズの種類)、ピラルク(3.5m)、海豚(イルカ/ジュゴン)。

6月16日、サン・パブロ島。

6月17日、左岸モロモロス村に迫る。

6月18日、アタクアリ、コチャ河口、カバリョ・コチャ湖に通じる運河を通過。

マラファス・インディオ(長髪、上唇が裂けている。森の王者)の地。

コチャ布教区。

6月20日、ヌストラ・セノラ・デ・ロレト。ペルー最後の町。

ティクマス・インディオ(濃い頭髪、赤い顔に縞模様)の地。

ジェズイット僧布教区。

住民:200人。

産物:市場で高価な「スミラセ(smilax/シオデ属・サルサパリラ/食用や薬用)」。

9種類の蚊。

6月23日、ハフマ島を通過。

夜空、南十字星、北極星。

・植物:コパイル・バルサム(コパイバ・バルサム/溶剤・薬用)、サンディ、ビガティコ、ヤケティバ。

・野鳥:ベンチビ(キバラオオタイランチョウ/岸辺の葦に巣をかける)、ニアンブ(一種のヤマウズラで和音をなす4つの調子で鳴く/イワシャコ/ものまね鳥)、カミチ(カンムリサケビドリ/嘆くように鳴く)、カワセミ、カニンデス(アオキコンゴウインコ)、紅いコンゴウインコ。

礼拝堂の鐘。

マノエル、不幸なデ・ゾドネ夫人の話。

6月25日~27日、タバティンガに停泊。

ブラジル領最初の町。

聖ポール教区。

ブラジル守備隊(軍曹1、兵士9)駐屯地 with 4台の青銅製短身砲。

ティクナ族、マヨルナス族、カフル族、ハヴァリの村民。

住民400人。

フラゴッソ、現地人に散髪屋サービス。

・植物：イピラピトゥンガ(交易の重要品目/赤い染料を採れる樹木の商品名「ブラサ(燠)」がブラジルの語源)、ボイアス椰子(ハンモックや漁網用繊維)。

森番トレス、フラゴツとベニートを信用させてジャンガダに乗せてもらう。

6月27日、出航。ハバリ河の島々を通過。

6月30日、フルパリ=タペラに一時停泊。

マノエル、ベニート、オオアリクイと鳥を獲って来る。

・狩猟：オオアリクイ

7月02日、サン=パブロ=デ=オリベンサの麓に到着。

金色に輝く川水。

・植物：ピアサバ椰子(数珠玉)

カトリック。

アメリカ風の服装をするトゥピナンパ族とトゥピニキス族。

住民:2,000人。

大農園。

駐屯司令官、税関主任の歓迎。

駐屯司令官、副官、警察署長をグラール家に招いて会食。

7月03日、出航。ヤクルパ河の河口通過。

ヤンディアツバ河の河口を通過。多くの島々。

クリノス族。

7月05日、オオコウモリの群れに遭う。

・動物：ペロス・ボラドル(吸血コウモリ)。

7月06日、昨晚産卵された亀の卵を大漁採取する。

7月07日、サン=ホセ=デ=マツラ村に到着。

背の高い水草。

7月08日、サン=アントニオ村。

イサ河&プツマイヨ河(アマゾンアマゾン河最大に支流)の河口。

嵐のためジャンガダ上の家にこもる。

7月09日、ツナンティス河の河口。

カケナス族。

7月13日、カプロ島。



・動物：ハシバミの木が好きなサル。

7月18日、フォンテボアの町に到着。

住民1,000人。

美しい教会(グワダグループのノートルダム)。

・狩猟：海牛(草食鯨類)を土民たちが捕獲。

7月19日、出航。

ジュルア族の中の女戦士。

7月25日、パラニ=タペラ村を通過して、エガ村に到着。

住民:1,500人。

この地方の中心地。

高級官僚がたくさん控えていた。

かつてカルメル会修道女の開いた伝道村。

上陸・見学。

リナ、フラゴツソに頼んでジャンガダに残るトレスを見張ってもらう。

7月27日、出航。

ヤプラ河河口を通過して、ヤプラ島に到着。

7月29日、カツア島に停泊

毒の吹き矢を持つムラ族。五穴の笛で仲間同士連絡を取り合う。

・植物：ククリート椰子。

8月02日、カツア島から80km離れたアポアラ湖入り口に達する。

8月04日、コアリ湖の入り口に停泊。

タファ=ミリ部落。

コアリ村。

・植物：オレンジ、カルバシ(ひょうたん、ゆうがお)の密林。

8月05日、ヤクラ河(?)の水路を通過。

8月06日、ミアナ湖(?)の入り口に到着。

ホアン、丸木舟のインディオに手紙を頼む。

8月10日、ココス島に到着。

セリングガル工場。

広大なセリングエイラの森。

・植物：セリングエイラ(学名:シフォニア・エラスティカ/ゴムの木)

約20部族のインディオ。

ベニート、ゴムを買い占める。

8月14日、プルス河河口を通過。

8月18日、ペスクエロの村に停泊。

夜、3匹のワニがジャンガダに乗って来る。

ミンハ、ホアン、危ないところをフラゴツソとトレスに助けられる。

トレス、予定変更してベレンまで一緒に行くと言い出す。

8月19日、右手にバロソ島とマナオアリ湖。

リナ、フラゴツソと婚約。

8月20日、カルデロン島と大地との間の緑にアーチ(拱門)を進む。

・野鳥：トキ、アオサギ、フラミンゴ、フェニコプテール(フラミンゴの近縁種)。

8月23日、右岸のムラ島の北端に到着。

夜、ジャンガダの上で会食。

トレス、チュコ(ミナスジェライス州)のダイヤモンド強奪殺人事件について語り、ホアンを脅迫する。

ホアンが拒否して、トレスはジャンガダを降りる。

チュコの元役人ホアン・ダコスタは26年前、事件の嫌疑によって死刑宣告を受けて脱走した受刑者だった。

8月24日、ジャンガダにマナウスの警察が来てホアンを連行。

ホアンの無罪を晴らしてくれるはずだったリベイロ判事は脳溢血で急逝していた。

マナウスの町。

エル・ドラドの伝説。

蒸気船の寄港地。アマゾン河、マデイラ河、ネグロ河が集まっている。

貿易:家具や建築用の木材、カカオ、ゴム、コーヒー、薬用サルサ根、サトウキビ、藍、ニクズク、塩漬の魚、亀のバター。

住民:5,000人(うち3,000人は役人)。

立法府、総理府、公共金庫、郵政庁、税関、学院、病院、墓地、要塞、聖母教会、ノートルダム・デルメード教会。

・植物：オレンジ、巨木シュモメイラ。

故リベイロ判事の代理はビセンテ・ハリケス判事だった。

ハリケス判事はホアンと話して良い心証を持つ。

ベニートはトレスを探し出し、フォルゴツソとマノエル立会いのもとにトレスと決闘する。

トレス、アマゾン河に沈む。

ベニートら潜水作業でトレスの遺体を探す。

ベニート、電気ウナギに感電するが、トレスの遺体が浮き、懐から暗号文の入った缶の回収に成功。

・サカナ：ピュラケ(電気ウナギ)

・野鳥：猛禽ガリナゾス(クロハゲタカ→クロコンドル)

缶をハリケス判事に渡し、判事、暗号解読に乗り出すが、鍵となる言葉が分からず苦戦。

その中にホアン無罪の証拠が隠されているはずだった。

フラゴッソがトレスが属していた森林警備隊を探し当て隊長にトレスの死んだ友人(暗号文を残した真犯人)の名前を聞き出す。

8月31日、そしてハリケス判事のところに駆けて、判事は死刑直前のホアンの無罪を晴らすのに成功。

9月04日、ホアン釈放の命令がリオデジャネイロから届く。

9月05日、再びジャンガダ出航。

9月xx日、ドン・ホセ・ド・マツーリ村を通過。

9月xx日、マデイラ河の河口を通過。

9月xx日、カニニー群島を通過。棕櫚の木。

9月xx日、セルパの部落を通過。

9月xx日、シルベス村、ビラ・ベラ部落(ガラナの大市場)通過。

9月xx日、ファロ村通過。

9月xx日、ヌムハンダ川のほとり(むかし女戦士が居たという)を通過。

9月22日、ネグロ河の広大な州が終わり大西洋に繋がるブラジル帝国に入る。

9月xx日、モンテ・アレグロ通過。

9月xx日、トロンベタス河の河口、ヘシタドレの町(要塞?カカオ集散地)通過。

9月xx日、タバジョース河の河口、通過。

9月xx日、サンタレンの町(人口5万人)。大部分はインディオ。白砂の白浜に高級な家々。

10月xx日、アレンケル通過。

10月xx日、北にパルアカルタ山脈、南にクルバ山脈。

10月xx日、モンテ・アレグレの町、ブライーニャ・デ・オンテイロの町、シング河河口を通過。ユルマ族は敵の頭蓋骨を陳列する。

10月xx日、マラジョの島(大州・堰)、ブレベス運河を通過。ブレベス村を通過。

タブヤ族。白人との混血が多い。

・植物：マングローブ。

10月xx日、トカンチンスの河口、モジュ河河口、サンタ・アナの町を通過。

10月15日、サンタマリア・デ・ベレン・ド・パラに到着。イキトス出航後4ヶ月半。

10月16日、マノエルとミンハ、フォルゴッソとリナの結婚式。

商船(蒸気船)が2,3日のうちに定期急行として就航することになっていた。

イキトス～ベレン間が1週間の距離に縮まることになった。

軍医マノエルはイキトスで民間の医者として働くことにする。

<メモ>

ポロロッカ:アマゾン川に海から逆流して来る流れ。

ファゼンダ:農場。

イキトス:ナネイ川とアマゾン川の接点。

ヨーロッパ人によるアマゾン河支流探検の歴史

1540年、ピサロ兄弟のひとりの中尉がネグロ河を下ってその一帯について記す。

1636～1637年、ポルトガル人ペドロ・テクセイテ、ナポ河を遡る。

1645年、スペイン人ファベラ、ネグロ河を発見。

1743年、ラ・コンダミーヌ(18世紀のフンボルト)はアマゾンの流れを科学的手法で確かめた。まず子午線～赤道への弧を測定。船でシンシペ→マラニョン川との合流点まで下りナポの河口に到達。木星の最初の衛星の出現を観察するのに間に合い、その地点の緯度経度を定めることに成功した。アマゾン河がオリノコ川に通じていることもほぼ確かとなった。

1798年、フンボルトとボンプランはナポ川までのマラニョン川の地図を作成。

1827年、リスター・モウ。

1834～1835年、イギリス人スミス。

1840年、ブラジル人バルデス。

1844年、フランス人中尉、ブロンネーズを指揮。

1848～1860年、フランス人ポール・マルコウ。

1857年、ブラジル、フランスがギアナの境界線を巡って紛争。紛争後、ブラジルは自由化されたアマゾン河とその水路の開発を隣接する国々と進められるようになった。

1859年、幻想的な画家ピアール。

1865～1866年、アガンス教授。

1867年、ブラジル人技師フランツ・ケラー・リゼンジャー。

1879年、医師クルヴォー。

アマゾン河流域の歴史

16世紀初頭、ポルトガル人がブラジルの地を占拠。インディオたちの土地の略奪。キリスト教伝道村の拡大。

1817年ルソ・ブラジル帝国建設。

1824年フランス軍がポルトガルから逐ったドン・ファンがブラジル独立宣言。

ブラジル、ロンデ島を強化し、ペルーとの国境線とする。

## アマゾン川の筏/船のタイプ

- ・ウバス:火と斧で丸太をえぐって作ったカヌー。舳先は尖って軽く、艫は重く膨らむ。12人の漕ぎ手。積載量3~4トン。
- ・エガリテアス:脇に漕ぎ手たちの座る通路、中央に屋根。装飾は豪華。
- ・ジャンガダ:三角帆と藁葺きの小屋、インディオの浮かぶ家。
- ・ヴィキリングス:3本のマストと赤い帆、4本の櫂。積載量8~10トン。
- ・コベルタス:ジャンク。船尾船室、キャビン1つずつ。四角帆ふたとオール10本。積載量20トンまで。

## 単位

1ピエ=32cm(=1feet)

## 船体の大きさ比較

ジャンガダ:長さ320m×幅19.2m。

戦艦大和:長さ263m×幅38.9m。

さるびあ丸:長さ120m×幅15m。

イガリテア(igariteos):毎回、everytime。おそらく定期便の船。

カイアララ(caiarara)。

ヴェルヌはこの直前の文章で"カイツブリ"(Grebe)と言っているが、caiararaは"フサオマキザル"というサルの事。

海牛:ジュゴン。

XV章終わりの日付の間違い。

仏語原文では"le lenemain 28"とあるが、英語では訂正して"that on morrow"と言い換えている。

誤)翌7月28日

正)(25日の)翌日の26日

XVI章冒頭の日付はヴェルヌの間違い。

誤)7月20日

正)7月26日

## ことば

- ・しかし未来という名のメダルには裏側がある。進歩は原住民を犠牲にすることなしには成されないものだ。→多くの原住民部族が消滅したり流浪した。

・リナと婚約した床屋のフランゴッソ。

パラ州ベレンで結婚式を挙げてミンハたちのそばで暮らすことが決まった時  
「パラ州がこんなに遠いと思ったことはありませんよ。」

・囚人に死を与えよと叫んでいた連中がすぐさま釈放せよと主張していた。  
群衆とはこうしたもので、極端から極端へと走るものである。

(参考)

Samuel FritzのAmazon river map

サミュエル・フィッツ((9 April 1654 – 20 March 1725, 1728 or 1730)は十分な測定器具が無い時代に、アマゾン川の最初の地図を作成した。

■ジュール・ヴェルヌ作品の関連地図一覧。

<http://verne.garmtdevries.nl/en/maps/originals.html>

『La Jangada』のアマゾン川コースの地図1(前半上流)と地図2(後半下流)。

『ジャンガダ』本編に出て来る地名が載っていない部分もあります。